

佛蘭西に於ける銀行集中の概観

小川 福太郎

- 一、銀行集中現象と其種類
- 二、大戦前に於ける佛國銀行集中と其特色
- 三、戦時に於ける集中の停止と戦後より最近に至る迄の状態

一

企業の合同集中は資本主義の發達に伴つて現はれ來る顯著なる一現象である。就中銀行業の集中は國家公共團體の財政の膨脹や他の企業の大經營化より起る資金需要の増大、交通機關の進歩發達、銀行業相互間の競争、恐慌や不景氣の時期に發生する銀行の失敗や破産等が直接又は間接の原因となることに依て益々其勢を増す傾向がある。而して現今此集中の盛んなる國は英米獨佛の諸國であり、近來我國に於ても漸く盛んとなる趨勢を現はしてゐるが、同じく銀行業の集中といつても其實現の方法には若干の種類がある。最初より大資本を以て銀行業を營むもの、單獨に増資をなすもの、小資本の

銀行を併合して大資本の銀行となすもの、相異なる大銀行が合併するもの、支店、出張所、代理店、預金取扱所を増設するもの、相異なる銀行間に利益分配の約定を結ぶもの、一方の銀行が他方の銀行に投資をなし或は他方の銀行の株式を獲得するもの、相互に營業上の連絡を圖るもの等の方法の一つを採り又は二つ以上を組合せるものを考へることが出来る。

英獨佛の三國に於ける銀行集中の方法を比較するに右各種の方法は是等の國に於て何れも行はれてゐるとはいへ、其間に互に異なる特色を見出すことが出来る。

先づ英國に於ては大資本の銀行が小資本の銀行を併合し或は大資本の銀行が相互に合併して更に一層大資本の銀行となす方法を探ることが盛んであつて、今日極めて少數の大銀行が極めて多數の支店を持つてゐるのは主としてかゝる合同の結果であるといふことが出来る。(1) 次に獨逸は歐洲大戰前に於て銀行相互の合併、支店の増加も共に多數であつたが英國に比しては少く、それよりも相異なる銀行間に相互の株式の交換をなし、又一方の銀行が他方の銀行の株式を獲得するが如き所謂利益共同聯合の方法に依る集中を行ふことを一の特徴として居つた。(2)

參照

- (1) 堀江歸一 英國に於ける銀行合同の趨勢及其特色(三田學會雜誌第十六卷第七號)
 (2) 富岡久次郎 獨逸の大銀行及金融 P. P. 218—240

然るに以下に於て専ら記述せんとする佛蘭西の銀行界に於ける集中の方法は英獨とは又異るところがある。

先づ始めに佛蘭西の大銀行が幾干程の支店代理店等を有してゐるかを見るに、佛蘭西の大預金銀行の一なるクレデイ・リオネの報告に従へば、大戦前に於て佛蘭西の各種の銀行が有する支店代理店等の總數は六千以上であつて、是を佛蘭西の人口數に割當てると六千七百人に對して又は千六百乃至千八百世帯に對して二つの支店又は代理店が存在する勘定となり、更に是を佛蘭西の商工業者數に割當てると、當時佛蘭西に於ては人口二十三人に對して一人の商工業者が存在する勘定であつたから、結局商工業者約三百人に對して銀行の支店又は代理店が一つ宛あつたといふことになる。ところが此の六千以上の支店、代理店の中で約二千は五大銀行の配下に屬するもので五大銀行は佛蘭西の總支店、代理店の約三分の一を有してゐたのである。(3) 此處に五大銀行とあるのは、從來三大預金銀行として知られて居つたクレデイ・リオネ、コントアル・ナシヨナル、ソシエテ・ゼネラルの外に *Société Générale de Crédit Industriel et Commercial* 及び *Bank Nationale de Crédit* の二行を指すものであるが、其中前三行の支店、代理店等は約千五百あつて、如何に此三行が支店、代理店等の増設に努めつゝあつたかは次の表を見る事に依て窺はれる。(試みに千九百年以後の右三行の配下の支店、代理店等の數を採る。)(4)

佛蘭西に於ける銀行集中の概観

	クレデイ・リオネ	ソシエテ・ゼネラル	コントアール・ナショナル	合 計
一九〇〇年	一七〇	三四四	一一一	六二五
一九〇五年	二二五	五六一	一五六	九三二
一九〇九年	二五三	七七一	二〇五	一二二九
一九一二年	二九〇	一〇〇一	二二八	一五一九

さて、所謂 *Le don d'ubi quite* を持つてゐる(到るところに存在するといふ意味)といはれる是等の大銀行がかくの如く多數の支店、代理店を年々増設するに至つた過程を見ると、彼の英獨に於けるが如く他の銀行を合併して其結果其の被合併銀行の本店及び支店を自行の支店、代理店となしたのもよしも寧ろ自ら直接に各地方に支店、代理店を設けたものが大部分を占めてゐる。此點は實に佛蘭西に於ける銀行集中が英獨のそれに比べて一特色をなすものであつた。今、かくの如く自ら進んで支店を増設する方法を、合併の結果支店の増加を來すものに比べると、前者は新設であるが營業上に多くの困難を伴ふが然し一面に於ては既設の銀行を合併するのに比べて多くの費用を要せないといふことも考へられる。佛蘭西の大銀行が自ら進んで支店を新設して行つた事は此の費用が少いといふことを考へ、一方の新設に伴ふ營業上の困難は、世人の信用の大なる大銀行であるから左程にも重大視せなかつたのであらうと思はれる。

(3) A. Théry, Les grands établissements de crédit français.....1921. P.43

(4) E. Kaufmann, La Bank en France 1914. P. 483.

三

上述の如く大戦前に於て盛んであつた佛蘭西の銀行集中も大戦以後平和回復の頃迄は一時停止の状態であつて、大銀行の支店網は擴張されないのみならず中には多くの支店を閉鎖するものもあつた。例へばクレデイ・リオネは千九百十七年の始めに七十六の代理店や出張所の完全閉鎖及び尙三十許りの一部の閉鎖の登記をなし結局其配下の支店、代理店等の四分の一以上を缺く事となつた。更にクレデイ・アンド・ユストリエール・エ・コンメルシャルも巴里及び其近郊にある支店数を二十九も減少し其他の大銀行に於ても假令閉鎖はせなくても少くとも何等の新設を行はなかつた。只例外としてはバンク・ナショナル・ド・クレデイが多少新設をなすのみならず二三の銀行を合併し或は若干の銀行の株式を獲得した位のものであつた。(5)かくの如く大抵の大銀行が支店、代理店等を閉鎖し或は新設をなさなかつたのは、佛蘭西が交戦地帯に近く其一部の領域は敵軍の侵入するところとなつた事、行員の従軍せし事或は新に幹部を養成する事が不可能であつた事等のために、營業上に種々の困難と支障とを來したのに依るのであつた。

かゝる外部的原因に依て集中の勢は阻止せられたが、然しそれは前述の如く全く一時的であつて平和條約成立後は再び舊勢を回復することとなつた。即ち大銀行は一時閉鎖したる支店、出張所等を再開し改造するのみならず、進んでは佛蘭西が平和條約に依て恢復したる地方にも又外國にも支店、出張所を設けることとなつたのである。(6)

其後最近の二三年に就て見ても(7)大銀行が營業所を増設することは止むことなきが如く、彼等は單に常設の支店、出張所等の増設のみにて満足せず、地方の郡役所所在地なる小邑に於て開かれる市の時期毎に定期的又は間歇的なる出張所を設け、更に又田舎の華客の許に時を定めて行員を派遣せしめるといふが如き方法までも採つてゐる有様であつて、苟も遊資の有する所は決して見逃さなまいといふ態度である。かくの如くにして一論者^{*}が皮肉に喩へたる「佛國金融上のオリンピ山の神々」(Dieux dans l'Olympe financier de la France)の手は到る所に伸されて行くのである。

戦前より最近に至る迄の佛蘭西に於ける銀行集中、特に大銀行の營業所の増加に就ては、以上述べたるところに依て畧々其状態を明かにすることが出来たと思ふ。次には資本の方面より銀行集中の状態を明かにする必要があるが、各年に亘る詳細なる數字を手にすることが出来ないので若干言を費して大体の事を記するに止める。

「佛蘭西全國に於て、今尙八百餘の小銀行、中銀行が存在し其資本金は十五億フラン以上を示して

ある」とはペルオトが最近の著に於て言へるところである。(8) 然らば大銀行と稱せられるものの資本金はどの位あるかを見るに、従来三大預金銀行と稱せられたるクレディ・リオネ、ソシエテ・ゼネラル、コントアール・ナショナルの三行だけの千九百廿三年末に於ける拂込資本金は各々二億五千萬フランに達してゐるから、ペルオトのいへる十五億フランを全部拂込資本金であるとしても此三行だけで既に拂込資本金の上に於て約四百許りの小中銀行に匹敵することになる。しかも尙右三行以外に大預金銀行と稱せられるもの(前掲のクレディ・アン・デ・ユストリエル及びバンク・ナショナル・ド・クレディの如き)及び動産銀行の雄なるもの例へば Credit Mobilier ^{クレディ・モビリエ}、ユニオン・パリジアン銀行、巴里和蘭銀行の如きものの資本金を合計すれば、それだけの大銀行の資本金で以て、よく八百餘の中小銀行の資本金に匹敵する事になる。是に依ても亦、佛蘭西に於ける銀行集中の一斑を窺ふことが出来るであらう

——(完)——

- (5) A. Thery, op. Cit. P. P. 243—245.
 (6) A. Thery, op. Cit. P. 301.
 (7) Revue d' economie politique 1923 No.2 及び 1924 No.2 の "Les Banques" に據る
 ※ Lysis.
 (8) C. Perreau, Cours d' economie politique. 2ed Tome I. 1922. P. 455